

文化財ニュース いわき

第 62 号

平成 11 年 6 月 29 日

財団法人いわき市教育文化事業団
福島県いわき市常磐藤原町手這50-1
(いわき市考古資料館内)

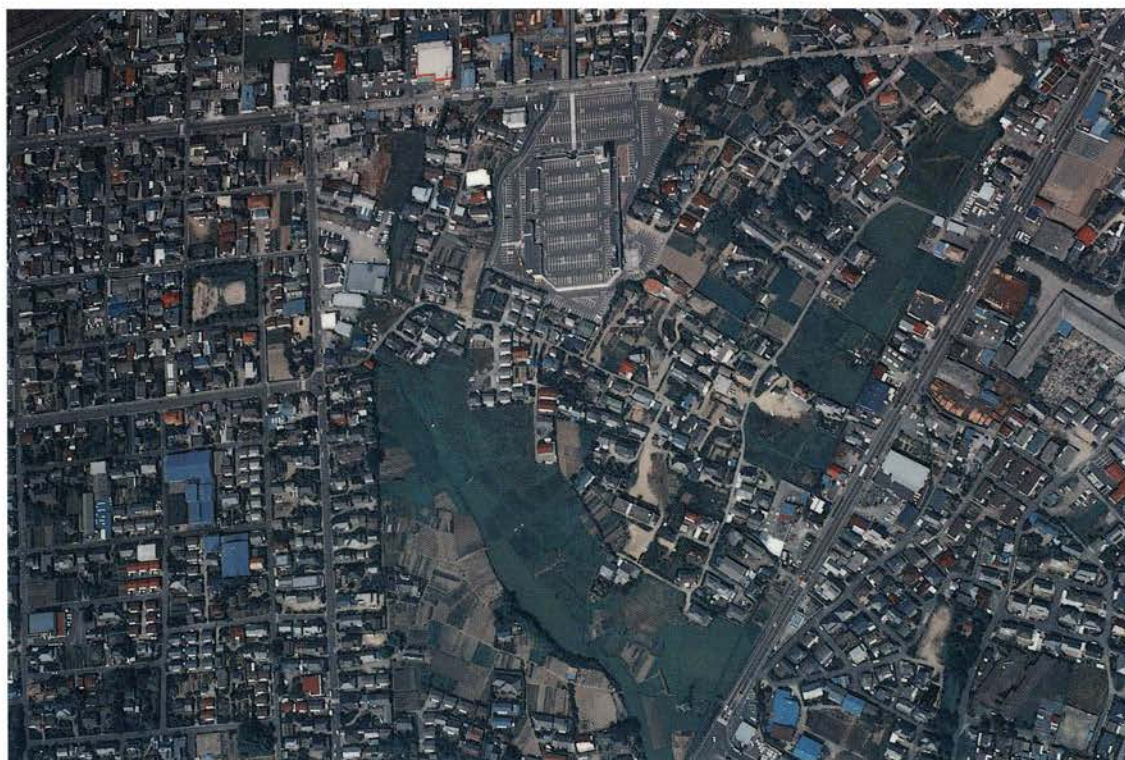
TEL 0246 (43) 0391

泉第三土地区画整理事業埋蔵文化財発掘調査

— 平成10年度 神力前B遺跡・折返B遺跡の成果 —

いわき市泉町^{たきじり}滝尻地区の^{はくつちようさ}発掘調査は平成4年から始められ、現在も続けられています。これまで、^{おりかえし}折返A遺跡・^{すがまた}菅俣B遺跡などの^{はくつちようさ}発掘調査が行われ、約1,700年前にこの地区を治めていたと思われる豪族がいたことがわかりました。そのほかにも^{じようもんじだい}縄文時代の土器や^{やよいじだい}弥生時代のお墓、^{こふんじだい}古墳時代の人々が住んでいた^{じゆうきよあと}住居跡や^{どこう}土坑（当時のゴミ穴）、^{えどじだい}江戸時代や^{めいじじだい}明治時代の用水路などがたくさんみつかっています。これらは、地面の下に埋まっていることから^{まいぞうぶんかざい}埋蔵文化財と呼ばれています。^{まいぞうぶんかざい}埋蔵文化財の^{はくつちようさ}発掘調査は、おじいさんやおばあさんの時代はもちろんのこと、大昔の人々が使っていた^{さわ}道具に触ったり、住んでいたところを^{まじよう}実際に見たりすることができるのでおもしろいのですが、私たちの先祖が^{まじよう}残した貴重な^{はかい}文化財が破壊されるため、記録をして将来に伝えるという重要な使命もあるのです。

とじておきますしよう。



土地区画整理事業以前の^{たきじり}滝尻地区

(平成4年撮影)



砂の上に残された生活の跡あと



弥生時代のお墓（土器棺墓）やよいじだい



古墳時代の初めの頃の住居跡こふんじだい



住居跡からみつけた甕や壺じゅうきょあと

縄文・弥生時代（約12,000～1,700年前）

約10,000年前、氷河期が終わり地球はだんだんと暖かくなり、海が陸地に進入してきます。縄文時代前半の滝尻地区は、大部分が海や砂浜でした。今でも、地面を掘ると砂が出てくるのはこのためです。その後、気候がやや寒くなり、陸地となっていきました。

滝尻地区に最初に進出した人は縄文人で、約4,000年前のことです。当時流行した土器がみつかりました。海辺に狩りにきた人達が忘れていったのかも知れません。しかし、まだ生活の場としては使われませんでした。

弥生時代になると、現在とほぼ同じ地形となります。中頃（約2,000年前）には、土器を使ったお墓がみつかりました。しかし、周辺には住居跡などはみつかりません。

古墳時代（約1,700～1,300年前）

古墳時代の初めの頃（約1,700年前）、滝尻地区には、たくさんの方が暮らしていました。当時の人達は、地面を3～5メートルの大きさに四角く穴を掘ってつくる竪穴住居に住んでいました。住居跡の床からは食事を作るのに使った炉の跡や土器がたくさんみつかります。この時代の土器は縄文土器や弥生土器と同じく素焼きの土器で「土師器」と呼ばれています。

今回みつかった住居跡は、以前調査された折返A遺跡や菅俣B遺跡でみつかった柵で囲まれた住居と同じ時期です。滝尻地区はこの時代の中心的な場所だったと考えられます。この頃の人々の生活についてはまだわからないことも多く、今後の発掘調査が楽しみです。

とじておきます。

奈良・平安時代（約1,300～800年前）

調査して見つかった当時の生活の跡には、
 たてあなじゆうきよあと ほったてばしらたてものあと どこう みぞあと
 竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝跡があり
 ります。

たてあなじゆうきよ じょうもんじだい こふんじだい
 竪穴住居は縄文時代からの伝統で古墳時代
 と同様のものです。住居内からは、炉のかわ
 りに用いられるようになった調理用のカマドや
 屋根を支える柱の穴、ちようぞうようの穴、日常使わ
 れた土器（土師器・須恵器）が見つかりまし
 た。土器は、個人の器としての杯、煮炊きの
 ために使われ、すすのついた甕や甑、貯蔵用
 の壺がありました。墨で漢字が書かれている
 土器もみついています。

ほったてばしらたてものあと ほ こ
 掘立柱建物跡は、地面を掘り込まない建物
 で、住居や倉庫として使われたと考えられて
 います。



カマドのある平安時代の住居跡



掘立柱建物跡

鎌倉～江戸時代（約800～130年前）

かまくら むろまち あづちももやま
 鎌倉～室町・安土桃山時代の生活の跡はま
 だみつかっていないので、この時代の滝尻地
 区のことにはよくわかっていません。

えどじだい いずみはん
 江戸時代には、近くに泉 藩の殿様のお城
 が築かれ、城下町もできました。この時代の
 生活の跡には、みぞあと はか
 溝跡には、溝跡やお墓があります。

みぞあと
 溝跡は、幅が2メートルをこえるものもあ
 りました。「堀江」と呼ばれ、農業用水路や水
 田に利用されていたようです。

えどじだい
 江戸時代のお墓は1ヶ所みついています。
 いこつ うるしぬ
 遺骨は残っていませんでしたが、漆塗りのお
 わん かんえいとうほう じゆずだま
 椀、お金（寛永通宝）、数珠玉が入ってしま
 した。近くに「莊嚴寺」というお寺があったと
 いうことですが、めいじじだい こわ
 いうことですが、明治時代になって壊されて
 しまい、今は残っていません。

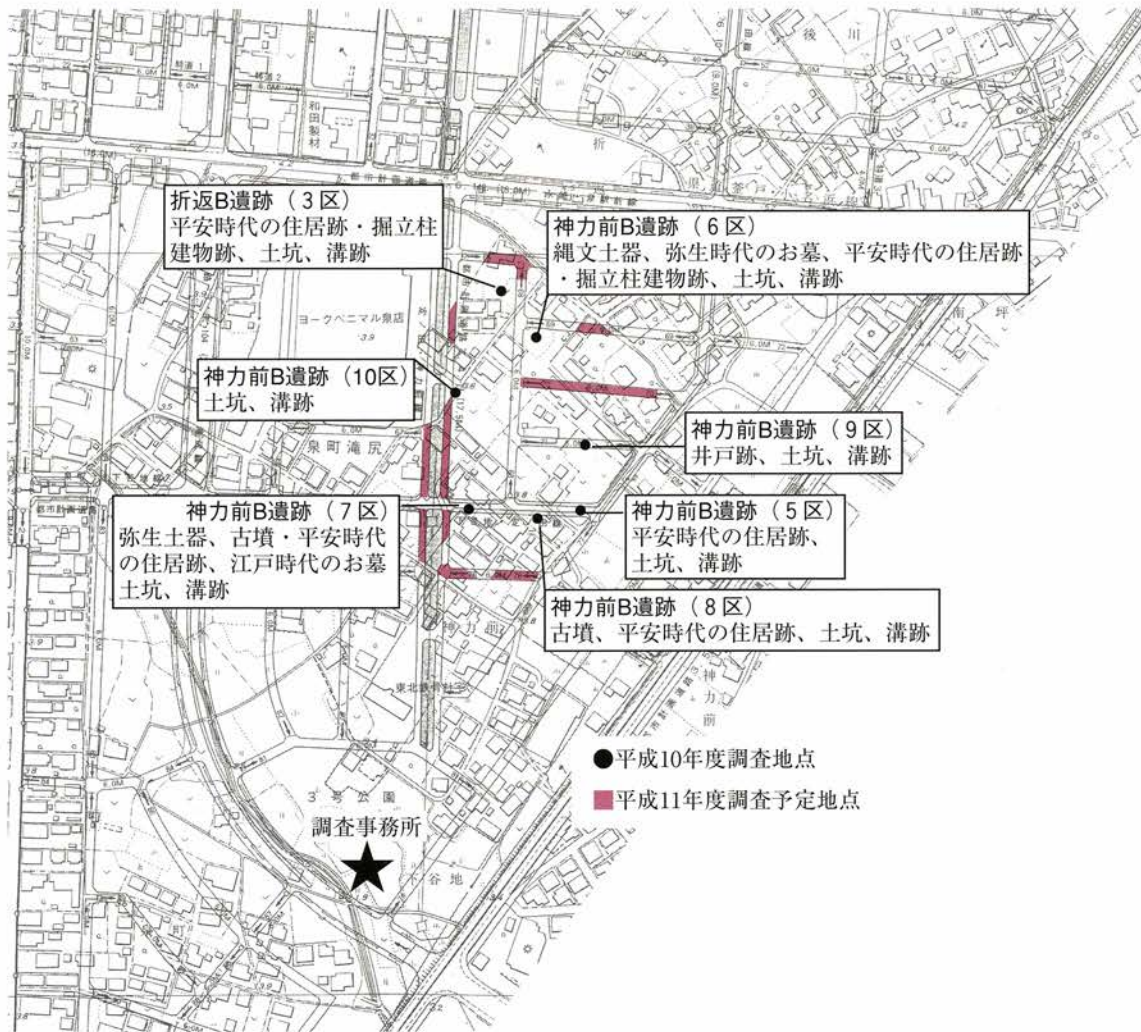


江戸時代の溝跡（堀江）の調査



江戸時代のお墓に入っていたもの

とじておきますしよう。



平成11年度の調査予定地点と平成10年度の調査地点

これまで、お知らせしたのは平成10年度の発掘調査でわかったこと^{はくつちようさ}です。今までの発掘調査でわかった^{たきじり}滝尻地区の歴史をまとめると次のようになります。

- ①約4,000年前、縄文時代^{じようもんじだい}の人々が来ていたこと。
- ②約2,000年前の弥生時代^{やよいじだい}にはお墓がつくられたこと。
- ③古墳時代^{こふんじだい}には人々が多く住みはじめたこと。なかでも東日本でも珍しい柵^{さく}で囲まれた特殊な住居に住む豪族がいた中心^{ちゆうしん}的な場所であったこと。
- ④奈良・平安時代^{なら へいあんじだい}にはカマドのある住居に住み、掘立柱建物跡^{ほったてばしらたてものおと}を住居や倉庫として使用したかもしれないこと。漢字を読んだり、書いたりできる人がいたこと。
- ⑤江戸時代^{えどじだい}には盛んに用水路が掘られ、お寺があって、まわりにお墓があったこと。

しかし、まだまだわからないことが多くあります。たとえば、滝尻地区^{たきじり}に人々が住みはじめたのはいつの時代だったのかとか、弥生時代^{やよいじだい}の人々はどこに住んでいたのか、水田があったのかとか、古墳^{こふん}はあったのか、などなどです。今後の発掘調査^{はくつちようさ}でわかることもあるかも知れませんが、みなさんも調べてみたり、話し合ったりしてはどうでしょうか。